

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	再確認する為に、毎朝申し送り時に唱和している。年に数回地域の方の協力を頂いている。		車イスの利用者が多く、地域の行事に参加できる方が少ないが、お大師様参りなど、できる事からやっている。少しでも多くの事に参加できるように検討中である。老人クラブの会長さんに相談している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	行事を行う時、近所の方々に声をかけ、理念の実施に取り組んでいる。(ソーメン流し、敬老会、もちつき)全職員笑顔で対応するよう心がけている。	○	新規の職員が入り、今勉強中です。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホール内分かりやすい所に、理念を掲げている。入居者、来訪者にも分かるように大きな字で書き、貼っている。	○	新規の職員が入り、早く理解し覚えてもらう為に、他の職員は再確認する為に、毎朝唱和している。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出たときは必ず挨拶を行う。周囲の畑や田、花、風景などの話題で会話をすることが多い。近所の方も声かけをして下さる。	○	季節の野菜や果物が時々差し入れられる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(泥打ち祭り)を見学し、宮司のお祓いを受ける。地域の文化祭に出品させて頂き、見学に行く。	○	地域の行事には参加したいが車イスの方が多く参加できない。老人会長さんお話をしている。体調に合わせてお大師様などに参加している。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で民生委員の方と情報を交換している。認知症について相談がある時等、その都度対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回全職員によるミーティングの時に、問題点・改善点などを話し合い、その結果を全員に報告した。	○	研修報告を含め、一步踏み込み、知識の共有を全員で行いたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議が行われるときに、利用者の状況や施設での行事等を伝え、意見・質問などを求めている。次のミーティング時に、管理者より説明を行う。		避難訓練をどのように行っているか見学して頂き、協力しますとおっしゃって頂いた。何か問題が起きたときは、その都度取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、アドバイスを受けている。		書類など手渡すようにしている。空室の状況や質問などを行い助言を頂いている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、合同ミーティングでも報告している。パンフレットを目に見えるところに置いている。		研修の予定があれば積極的に参加するようしていきたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	交代で研修に参加している。ホールの目につくところに身体拘束排除宣言書を貼っている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に「利用契約書」「重要事項証明書」を説明し、質問を尋ねている。面会、外出、外泊等自由にできることを話している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回のすずらん便りに行事や写真を載せ、利用者の方の生活状況報告書を記入し、発送している。		質問や不安がないか面会時等に声かけをしている(何かありますか?)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「すずらん便り」を発送し、その月の行事風景、生活の様子、全身的な事を書面にて報告し、家族からの要望などを聞いている。状態が急に悪化したときは、その都度連絡している。すずらん以外のところでお会いした時は積極的に声かけをしている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に利用者の状態を報告し、意見や要望を尋ねている。家族からの不満や要望があった時は話し合うようにしている。推進会議でも意見を頂いている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の1棟、2棟合同ミーティング、月1回のケアプラン会議を行い。意見や提案を聞く場を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	4交代のローテーションをしているが、状態に応じ対応できるようにミーティング、ケアプラン会で話し合っている。	○	職員の希望日に休みが取れるように、勤務作成前に聞きとり、調整している
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用者は、医療面は看護師、ケア面はユニット長をはじめ全職員で説明し、しばらく一緒にシフトに入る。1. 2棟職員のシフトはその都度行っている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別など排除して参加できる様、人の能力が発揮できる様に担当者、行事担当、希望する研修に参加し、必要な知識を取得してもらっている。研修費や交通費も保証している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する外部研修に参加するように心がけている。参加後はミーティングで報告を行っている。現場でも入居者の人権を尊重する事を話している。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質を向上させるために、研修に積極的に参加し、ミーティングで必ず報告を行っている。症例発表など職員で分担し、積極的に業務を行っている。	○	資格取得の為の援助を行っている 福岡県介護労働センターの研修参加
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者GH協議会や朝倉介護保険事業協議会や福岡県介護労働センター等の研修会に積極的に参加し、ミーティングで報告を行っている。他事業所からの質問や意見交換を電話で行ったり、入居状況などを尋ねている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会話の中から体調の変化に気づく様に心がけている。職員からの報告を受け、個別に話しかけていく様心がけている。		昼休み等利用し職員会で何でも話し合えるように工夫している
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	希望する研修や、外部研修に積極的に参加し、研修扱いとして、研修費、交通費は補助している。ケアで必要な物品は購入している。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と一緒にいる時は本人に最初に話しかけ、不安感をなくすように心がけている。ケアマネージャーからの情報も大事な為収集している。スタッフとも話すようにしている。	○	年齢が近く質問しやすく話しかけやすいように職員の配置を考えている
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループホームについて説明し、サービスや料金の事を話している。質問はありませんかと尋ね、介護保険などの説明も行っている。		利用者の近くの職員に聞けるよう不安ができるだけ少なくなるようにしている

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーに連絡し、情報交換を行っている。空室がないときも他事業者と連絡をとっている。		場合により病院との連絡をとっている
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学に来て頂き、入所予定の棟で時間を一時過ごして頂き、入所者の方と話をするように心がけている。ホーム内を見学して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の昔の話から知恵を頂く。上から目線で言葉かけをしないようにする。共通の話題を話す。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活歴などを考慮し、面会時は必ず状態を報告し、喜びを一緒に共有している。問題点などは相談し、昔のことを聞き、方向性を一緒に考えていくようにしている。利用者主体にならないようにしている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に要望や意見を尋ねたりしている。入所前の生活状況の聞き取りを十分に行う。面会が少ない家族とは電話にておこなっている。		今後も継続していきたい
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご主人の法事に出席する。孫の結婚式に出席する。新年を一緒に迎える為、帰宅する。米寿のお祝いに家族、兄弟姉妹と一緒に祝いする。体調がすぐれない時、娘さんや奥様が泊まれる。娘さんと一緒に食事に出かける		今後も継続していきたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒にソファーに座ったり、横にイスを持っていき、お話を聞いたりする。同じテーブルに座って頂き話題作りをしている。		今後も深めていきたい。仲間づくりをしてお互いに話し合えるようにしている
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方の病院見舞い。亡くなった方の家族との交流に努めている。お通夜やお葬式、初盆参りをしている。「野菜を取りに来て下さい」と声をかけて頂き、果物・野菜を頂いている。町や出先であったときに、気軽に声をかけたり、かけられりする。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を決めている。身体状況より出来る事出来ない事が多い事が多々あるが、一人一人にそって出来ることをいろいろ考え、一緒に行動するようにしている。声かけによりなるだけ本人の意向を聞くようにしている		できるだけ本人の思いにそえるように職員が努力する。本人の思いが聞き出せるよう方言や昔使っていた言葉にて話かける
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ユニット長と一緒に、入居前の面談時他の施設へ出向き聞き取りを行い、書類の提出なども依頼している。センター方式での情報もスタッフ全員で考えて把握するように努めている。		入所時の聞き取りが十分だと、入所されてからの対応が些細なことに対してもうまくいくので、これからも続けていきたい。家族との信頼も深まる。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護内容をチェックすることで、本人の状態を把握する事ができる。本人の出来ること、出来ないことを見極め理解している。		体調の変化にその都度対応している
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別手順書を作成し、全職員で会議をもち評価し、意見交換を行っている。かかりつけ医や医療機関を訪問しアドバイスを頂いている。		個別手順の変化や、個人の体調変化にて短期間でケアプランに対応できなくなっている場合がある。かかりつけ医に体調不良などをその都度相談し、状態にあったケアプランを提供できるように、意見を聞き検討している。家族にも同じように状況を連絡相談し、意見を聞いている。新規採用職員にもその都度説明を行い理解を求めている。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にケアプランを見直しているが、期間外で状態に変化がみられた方は、その都度意見を聞き、検討し、プランの変更を行っている。		3ヶ月、6ヶ月の見直し時に家族に相談し、サービス計画の見直しを全職員で検討している。状態の悪化によりプラン変更をおこなわざるえなくなった時も家族に連絡し、全職員で話し合い作成し、家族に同意を求めている。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、活動内容などの記録により、情報を共有し、実践している。		月1回すずらん便りと一緒に家族に報告している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が病院受診できない方は施設で行っている。本人が外出できないため本人の居室にて米寿のお祝いを家族・職員一緒に行った。100歳のお祝いを施設全員で行った。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月消防避難訓練と、年2回の消防立ち入り訓練を行って評価を頂いている。行事の時に、子供会やボランティア、民生委員の方に協力して頂いたり、推進会議の中での研修アドバイスを受け受講している。		お大師様参りは今後も続けたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設のケアマネジャーやサービス事業者と意見交換を行い活用している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の家族の件で相談に行き、アドバイスを受け、協力を得れるようになった。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診受信の際は必ず記録し、職員が把握している。町内のかかりつけ医はそのままにし、日曜祭日など連絡が取れない時は、施設の協力医療機関に了解を得るようにして、利用者の状態を悪化させないよう努力している。		状態・状況に応じて家族に報告している。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医との連携を窓口にし、治療方法を助言して頂いたり、職員にも状態報告をしている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間医療連携体制をとり、協力医療機関の看護師に相談している。施設内に看護師が2人いるため、常に状態変化に注意している。		今後も続けたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者、ユニット長、担当職員がお見舞いに行き、情報収集に努めている。退院後も生活状態の変化などを家族に連絡している。		施設生活が早くできるように、施設内で勉強会を開いている
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときのマニュアルを作成している。家族に連絡をとり、状態が悪化していることを説明し、医療機関とも頻繁に話し合いをしている。看護師とも常に連絡が取れるようにしている。		家族の意向を重視し、家族の希望を最大限に受け入れ同意書を頂いている。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	24時間連携体制をとり、主治医や協力医療機関に相談・助言して頂き、利用者の状態を把握し全職員で検討している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	担当ケアマネージャーやソーシャルワーカー、看護師と連絡し家族と話し合いを行っている。		施設から移動・転院する時は園での生活を詳しく申し送っている。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人のプライバシーを尊重して対応している。呼び名、声かけはその方を損ねないような言葉かけをするようにしている		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員のペースじゃなく、利用者様の意思表示を尊重している		夜勤帯など一人勤務になったときは、職員のペースになっている時があるので、できるだけ少なくしていきたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	問いかけるなど無理じいはせず、支援している。就寝時間など個人によって違い、テレビを見て過ごされたり、職員と対話をして過ごされる方もおられる		さみしがり、一人で居室で眠れない時は、ホールで過ごして頂いたり、休んで頂くこともある。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容は施設に散髪にきて頂いている。ボランティアでナリス化粧品の方にお化粧をして頂いている。職員が白髪染めしている。		理容師に一人一人どんな風に切るのかを声かけしてもらい、本人の希望通りになるようにカットしていただく。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食が進まない方はご本人様のペースでゆっくりと召し上がって頂き、箸を置かれたら声かけや介助を行う。利用者様のペースを大切にしている。野菜を作り季節の物を食べて頂く努力をしている。天気の良い日はテラスでお茶や駐車場でピクニックを行い、職員も一緒にお話をしながら過ごしている。		食器を下膳されたり、テーブル拭き、食器拭きなどをお手伝いして下さる。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつで時々お芋をふかしたり、入居者の方とホットケーキやたこ焼きを焼いたりしている。飲み物もお茶の他に、コーヒー、紅茶、ココアなど準備し季節に応じて飲んで頂いている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	約2時間おきのトイレ誘導を行い、排泄の失敗やパターンをつかむよう支援している。排便記入をし体調管理に努めている。		オムツ使用の方でも訴えがあればトイレ誘導を行っている
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決められたスケジュールで実施している。状態に応じて入浴、シャワー浴をする時もある。季節のゆず湯などを取り入れている。	○	体調に応じて入浴している。休む頃に「風呂は入ったじゃろか」「風呂にはいっちょらん」との声も聞かれ検討した事はあったがそのままになっている。この先考えていきたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	声かけを行って臥床して頂いている。個人に応じて湯たんぽを入れている。体調により、居室に冷暖房を入れている。加湿器なども利用している		居室にて休めない方は、安心して休んで頂くため臥床場所を考えている。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を参考にし、利用者の好きなことで楽しんで頂けるよう心がけている。誕生日の方は外食に行っている。		体操やレクリエーションの時に、役割を持って頂いている。歌の好きな利用者には歌の先生として、毎回手拍子に合わせて歌ってもらったり、年長の方には号令かけをお願いしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失したことがある為、本人には持たせていない。外出時は施設長から手渡している。		人所されたときに家族が小銭入れにいくらか入れて家族が持たせている所もある。なくしていいですよとおっしゃって下さるが、あまり本人の目にふれない所に置かせてもらっている。食事の時にたまに、ご飯代をはらわなとおっしゃる時もあるので、その都度安心するような声かけを行っている。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	受診の際などに外出したり、季節の花を見に行ったりしている。天気の良い日は散歩し、外で体操や歌を歌っている。近所の庭先へおじゃましてお花を見せて頂く事もある。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の思いを家族に知らせて、実家に行って頂く事もある。菜の花、桜、つつじ、等外出行事も取り入れている。		利用者様の誕生日に外食を行う
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたら、手渡しお話しして頂いたり、暑中見舞いや年賀状など手紙を書いて頂きおくっている。書けない方は写真付きのハガキを送っている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室でゆっくり会話して頂けるように配慮している。ご家族が希望されるときはホールで過ごされる。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などに参加し、理解し、取り組んでいる。ホールのわかりやすい所に身体拘束排除の紙を貼り再確認している。		やむおえない時は家族に了解をもらい、拘束するときもあるが、出来る限りは少なくしている。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は見守りを重視し鍵をかけない。夜間帯は玄関を施錠している。18:50~8:00。ソファに座りできるだけ利用者様の隣で過ごすようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	体調などに注意し常に見守りを行いながら、利用者の安全につとめている。		安全・事故防止に努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	車イスなどは歩行の邪魔にならないように片付けたりしている。刃物類は夜間事務所に保管している。不穏状態の方がおられるときは、昼夜を問わず事務所に保管し、必要なときだけ注意を払って使用している。		目と手の届かないところに保管する。
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災については定期的に訓練を行い、そのほかの事故については、常に見守りを行い事故防止に努めている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月1回のミーティング時に看護師による勉強会を行い、知識を得るようにしている。		急変時は看護師と連絡がとれるようにしている。必要に応じて看護師より指導をもらう。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は毎月1回、年に2回の消防署の立ち入りを実施している。推進会議に出席されている民生委員さん老人会長さん、ご近所の方に協力をお願いをしている。緊急連絡網ですぐに招集できるようにしている。		協力して頂く返事を得る。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ミーティング時に話し合っている。口頭においても説明するが、常に利用者が安全に暮らして頂けるよう考え配慮している。		面会時に予測できるようなリスクは説明している。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェック、入浴前のバイタルチェックを行い、体調について対応している。管理者や看護師に指示を受けている。		異常があるときは随時チェックしている。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を作成している。ミーティングでも話し合いをしている。		薬が変わったときは報告している。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩に行く。水分をおやつ時、毎食事、必要に応じてとって頂いている。緩下剤は体調をみて調整している。かかりつけ医に相談している。		繊維質の食材をしようするよう心がけている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科往診にきてもらっている。自立されている方は声かけ、出来ない方にも、一部介助のみで、利用者に応じた支援を心がけている。義歯は毎晩外し、水につけ週に1回洗浄剤につけている。		口腔内の状態が悪い方は義歯を外し様子を見ている。毎食後の歯磨きと口すすぎをおこなっている
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事摂取量は記録している。水分量は飲まない方や、状態が悪化している方のみ記録している。スポーツ飲料を飲んで頂くよう用意している。水分で誤嚥のある方はトロミをつけたり、流動食を用意したりしている。		状態に応じて、お粥、一口大、キザミ、トロミなどで対応している。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては、利用者・職員共に予防接種を行っている。研修報告書などで知識を深める。その他については、うがい・手洗いを実施する。		来訪者に手指の消毒スプレーをおいている。病院・施設からの入所の時は、全着替えを消毒している。職員の出勤制限も行った
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキン・手ふきタオルなどハイターにつけ衛生につとめている。施設の畑でとれた新鮮な食材を使用する。		食器は乾燥機を使用したりしている
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門より玄関はコンクリートだが、ゆったりとした出入り口になっている。玄関前・居室前には季節の花を植え、家族の方と穏やかに過ごして頂けるようにしている。また、近所の方も花を見て声をかけてくださる。		元気のよい利用者と一緒に花を植えたり、プランターを好きなようにおいてもらいたい。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前には花壇があり、季節の花を植えるなど工夫している。生け花好きの利用者に花を生けて頂き、利用者の見える場所においている。玄関には季節の人形をおいたり、壁に貼り絵をしている。		季節感を感じて頂けるような工夫をしている。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座位値を考え一人一人の居場所作りをしている。		一人にならによる声かけをしたり、職員がそばに行き話をしたりしている。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていたタンスなどを持ち込み、人形や趣味で作った飾り物などを置いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気に応じて温度調節をしたり、窓を開け空気を入れ換えたりと配慮している。温度・湿度計を設置し天井からはプロペラを回転させている。冬期には脱衣所にファンヒーターを使用。洗濯物は夜間室内に入れ乾燥を予防している。		加湿器を一部使用している。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人にあうように、畳の居室にしたり、ベッドを使用したりしている。車イスからソファに座って頂くなど体に負担をかけない工夫をしている。	○	クッションやひじかけのあるイスをうまく使用している。車イスには、滑り止めマットを、フットレスにはカバーをつけて剥離予防をしている。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の耳元で伝えたり、分かりやすい言葉で話す事で、不安をなくして頂いたり、常に笑顔で接するように心がけている。		場合により、昔使っていた言葉や、方言などを使用する。もし、失敗された場合、プライドを傷つけない様、声かけにも気配りをする。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気のよい日はベランダでお茶会をすることも。行事などで、利用者、ご家族でベランダを利用される。寝具を不定期ではあるが天日干ししている。		季節を問わず継続していきたい

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 <input type="checkbox"/> 》①ほぼ全ての利用者の 《 <input checked="" type="checkbox"/> 》②利用者の2/3くらいの 《 <input type="checkbox"/> 》③利用者の1/3くらいの 《 <input type="checkbox"/> 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 <input checked="" type="checkbox"/> 》①毎日ある 《 <input type="checkbox"/> 》②数日に1回程度ある 《 <input type="checkbox"/> 》③たまにある 《 <input type="checkbox"/> 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 <input type="checkbox"/> 》①ほぼ全ての利用者が 《 <input checked="" type="checkbox"/> 》②利用者の2/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》③利用者の1/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 <input type="checkbox"/> 》①ほぼ全ての利用者が 《 <input checked="" type="checkbox"/> 》②利用者の2/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》③利用者の1/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 <input type="checkbox"/> 》①ほぼ全ての利用者が 《 <input type="checkbox"/> 》②利用者の2/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》③利用者の1/3くらいが 《 <input checked="" type="checkbox"/> 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 <input checked="" type="checkbox"/> 》①ほぼ全ての利用者が 《 <input type="checkbox"/> 》②利用者の2/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》③利用者の1/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働けている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 ○ 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない